



秩父百年の森通信

今年 2017 年は、秩父のブナの豊作を 7 月に確認しました。2005 年のイヌブナやミズナラのドングリの豊作以来、ひさびさの豊作が期待できる見込みです。6 月 30 日に伊佐ホームズ株式会社、秩父樹液生産協同組合を中心に「森林パートナーズ株」が設立されました。秩父の材を使用した家造りが計画的に始まります。植林の需要は確実に増えて行く事が予想されます。種から育てた苗が活動資金の一部に出来るように進めていく考えです。苗づくりは雑草と、蝶との闘いになりました。植林は下草刈りと食害の闘い。植林のための苗の移動方法を考えた苗畑づくり。広葉樹遺伝子攪乱を防ぐ「植樹は種から」として育苗を進めています。支援活動のカエデ樹液、第 3 のみつ、千鹿谷の山椒、古郡ホームの森づくりの各プロジェクト。これからのロードマップを皆さんで確認していきましょう。

(坂本)



(1) 山吹沢県有林の森づくり 2016/10/29

山吹沢の植林にて・・・楽しい？！

車が入っていけないギリギリの場所で、荷物を背負い靴を履きかえて、ここからがスタートです。

リュックに着けたクマよけの鈴が、輪唱のようにひびく山道をゆっくり登っていきます。見上げると、あちらの木々は〇年前に植えたもの、むこうに見えるのは〇年前に植えたのがやっと育って、と話はつきません。

シカに新芽を食べられた木や、雨に流されたような地面を見ると、木が育ってくれることのありがたさを思います。いつの日か、「あれが〇年前に私が植えたものでね・・・」と語れる日を夢見て、石ころだらけの地面にスコップをつきたてていきます。(池田)



(2) ふたばの森づくり 2016/11/05

ふたばの森づくりも 2010 年以來いつのまにか 8 年目を迎えようとしています。毎年 どんぐりを拾い自分で牛乳パックで 2 年かけて苗木に育て植林します。まさにこども達は成長とともに生きた森づくりを体験します。今年も植林が予定されていますが、初期の頃に植えた小さかった苗が大きく育って森らしくなったのを見ると これからも、こども達の育む森づくりの活動を一緒に取り組んでいこうと思います。(島崎(〒))



」

(3) 槌打 第 2 回 未来へつなぐ森づくり 2016/11/19

2015 年大滝中学校が荒川中学校に統合された秩父の子どものための植林をスタートに、「未来につなぐカエデの森づくり」は始まった。2015、2016 年と伊佐ホームズの秩父材による家づくりは森林パートナーズ(株)の「森を育てる家づくり」へと進んできた。豊かな森づくりのために人工林を積極かつ計画的に建築材へ使用する。新たな国産材の流通は山主の森林経営が可能となり山が蘇る。伐採後はカエデを植栽し 20 年後のカエデ樹液採取を約束している。林業の作業道はカエデの樹液道と呼ばれ、秩父地区で 100 トン採取、現在のアクロバットな樹液採取も過去のものとなるようだ。(坂本)



(4) 原石山の植生回復状況

草も育たなかった植栽地ですが、徐々にですが緑が増えています。鹿食害防御ネットに囲まれたエリアの中と外では一目瞭然、山吹や槌打でも感じていたが、原石山は顕著にあらわれています、鹿柵の外はまるで手入れの行き届いた庭のようで、内側の一部は鬱蒼としてきています。植栽木も少しですが元気に育ってきたように思われます、多くの実生苗も生育が進んでいます。一度壊れた植生が元に戻るのには長い年月がかかることを思い知らされています。



(5) 苗畑作業

2016年10月14日に苗畑作業（草むしり、根巻き）を行いました。根巻きは、根の周りを掘り起こし、土を落とさず、麻布で包み、縄で絞める作業です。これを行うことによって、根の乾燥を防ぎ、この状態で数日維持できるそうです。根巻きはとても大変でした。まず、土が固くなかなか掘れません。土を落とさず根を巻きたいのですが、布の上に移動させるときや包んでいるときに、土がぼろぼろとこぼれてしまいました。石坂さんの指導のもと、なんとか1つは根を巻くことができました。

森づくりと言えば、「植樹」というイメージでしたが、その前段階に多くの時間と人びとの手が入っているのだなと体感しました。 （落合）



(6) 地域活性化支援プロジェクト

■ 千鹿谷郷ひなた村の山椒プロジェクト

私たちは下吉田の山中にあります千鹿谷郷ひなた村という集落にて山椒の育成を行っています。秩父市の北側の山奥、群馬県との境に、千鹿谷（ちがや）という小さな集落があります。標高は400メートル、小高い山々に抱かれた11軒の家、人口は20人ほど、60歳以下は4人しかいない、平均年齢は70歳近くの限界集落です。千鹿谷の郷は、日尾城に仕えた武将の末裔の集落です。日尾城は15世紀の後半頃、秩父に勢力をもっていた長尾景春の支城の一つでした。



この活動は、限界集落で暮らす方々と山椒の育苗管理、有用性など交流協力を通じて少しでも地域の活性化のお手伝いができればとのことで進められているプロジェクトです。

今年は苗の成長も順調でアゲハチョウや鹿などの食害防止の為にネット設置や下草刈りなどを中心に活動し、地域の方と山椒の新芽を使った料理の研究会などを開催するなど少しずつではありますが住民の方との協力体制も定着してまいりました。

今後は山椒と地域での特産品との組み合わせなども視野に入れながら、より住民の方と交流を深めてプロジェクトを進めてゆきたいと思っています。 （佐々木）



■ 千鹿谷郷モニタリングツアー 2016/12/10

晴れの1日、札所31番から日尾城址・観音山を經由して千鹿谷の郷まで歩きました。

空気が美味しい自然の里、千鹿谷は、平均年齢約70歳の19人10世帯が暮らすいわゆる「限界集落」。その悲しい言葉の響きを吹き飛ばすように、千鹿谷の皆さんはお元気で、山歩きで疲れた私たちを郷土料理で温かくもてなしてくださいました。

NPOではこの里を応援する活動を続けていて、山椒を育てたり、柚子の収穫を手伝ったりしています。この日は、ゆず酢を作る自作の機械で柚子絞りの体験をさせていただき、たくさんの柚子をお土産にいただきました。(河合)



■ カエデ樹液プロジェクト

1月11日槌打から設置をはじめ、3月8日撤収まで、11.7tの樹液を採取しました。作業の模様はNHKニュースはじめ、日テレやTBSやBS朝日など、いろいろな番組で取り上げられました。

■ 第3のみつプロジェクト

被災地の地域振興に向けて福島県立安達東高校(二本松市)への「第3のみつ」製法技術の支援活動を行っています。安達東高校は『「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2016』において、学生の部の優秀賞とJR東日本賞のW受賞しました。



全国育樹活動コンクール国土緑化推進機構理事長賞を頂きました。



2016年10月9日「育樹の輪 ひろげる森と 木の文化」をメインテーマに第40回全国育樹祭が京都府南丹市「府民の森ひよし」を会場に皇太子殿下の御臨席を仰ぎ開催されました。私たちNPO 秩父百年の森は、これまでの活動が認められ、平成28年度全国育樹活動コンクールにおいて国土緑化推進機構理事長賞を受賞しました。

第26回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰、第6回地域再生大賞の優秀賞に続いての受賞となりました。

<会員募集>

豊かな森がいつまでも続くように、いま山の人、里の人、街の人たちが共にかかわることがとても大切になっています。私たちNPO 秩父百年の森は、4つ活動(1)山村と都市との交流促進に関する事業、(2)持続可能な森林・林業モデルの形成に関する事業、(3)環境教育支援に関する事業、(4)地域活性化ビジネスモデルの形成に関する事業、を通して森とかかわり、森を生かす試みを行っています。私たちと一緒に活動してみませんか。入会は入会申込書に記入のうえ事務局までご連絡ください。

<お便り募集>

会員の皆さんからご意見、ご感想、活動原稿をお待ちしております。

メールアドレス: info@faguscrenata.com

特定非営利活動法人 秩父百年の森
〒368-0072

秩父郡横瀬町大字横瀬 1965 番地